

「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」 ーハーバード大学, レディング大学, 北海道大学を事例にー

国立情報学研究所および大学図書館では、平成17年度以来、機関リポジトリの構築による教育研究成果のオープンアクセス化に努めてまいりました。その結果、現在日本で機関リポジトリを持つ機関数は180を超えるなど、一定の成果を収めています。また、SPARC Japanの取組みなどにより、オープンアクセスジャーナルへの関心も高まりつつあります。

一方、第4期科学技術基本計画の策定に向けて、「科学技術基本政策策定の基本方針」（総合科学技術会議・平成22年6月16日）には、機関リポジトリの充実や研究成果へのアクセスの容易化、学術情報のデジタル化やオープンアクセスの推進などが盛り込まれ、これらの施策は政策的にも重要な位置を占めつつあります。

なぜ、ハーバード大教授会は論文のウェブ公開方針を決議したのか？

英国の大学等によるOA方針、公的資金による研究成果公開の制度化状況は？

どうなる？ どうする？ 日本の研究成果OA方針

米国国立衛生研究所(NIH)のパブリックアクセス方針法制化は何をもたらしたか？

日本で初めて、機関リポジトリによる研究成果の公開方針を取り入れた、北海道大学の状況は？

今回のシンポジウムでは、世界に先駆けて研究者自らが研究成果のオープンアクセス方針を決定したハーバード大学を始め、国内外の最新の事例をご報告いただきます。

研究成果の公開促進の意義と課題について議論する場といたしたく、関係者各位にはぜひご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

◆お申込先：

<http://www.nii.ac.jp/sparc/>

◆お問合せ先：

国立情報学研究所学術コンテンツ課図書館連携チーム
Tel: 03-4212-2302, 2361
E-mail: co_sparc_all@nii.ac.jp

12月10日(金)

10:00~17:00

東京大学鉄門記念講堂
にて開催

プログラム・講演者の詳細は、裏面をご覧ください

「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」

日時：平成22年12月10日（金）10：00～17：00

会場：東京大学鉄門記念講堂（東京都文京区本郷7-3-1 医学部教育研究棟14階）

総合司会：大場 高志（一橋大学学術・図書部長）

9：30～受付

10：00～10：20

前提となる基礎知識，状況認識共有のためのレクチャー（仮）

尾城 孝一（東京大学附属図書館情報管理課長）

10：20～12：00

講演1 「ハーバード大学のオープンアクセス方針について」

スチュアート・シーバー（ハーバード大学，Welch Professor of
Computer Science, Director, Office for Scholarly Communication）

（昼休憩）

13：30～14：30

講演2 「英国のオープンアクセス方針策定事例」

アンドリュー・A・アダムス（明治大学大学院経営学研究科特任教授）

14：30～15：00

講演3 「北海道大学の機関リポジトリの状況について」

山本 和雄（北海道大学附属図書館学術システム課長）

15：00～15：30

講演4 「海外におけるオープンアクセス化に関する政策論議の
展開（米国を中心に）」

遠藤 悟（東京工業大学大学マネジメントセンター教授）

（休憩）

15：50～17：00

パネルディスカッション

司会：

安達 淳（国立情報学研究所学術基盤推進部長・教授）

パネリスト：

スチュアート・シーバー，アンドリュー・A・アダムス

山本 和雄，遠藤 悟，加藤 憲二（静岡大学附属図書館長）

※講演1，2，パネルディスカッションは通訳付きです。

※会場の都合上，研究者の方以外は原則として一機関一名までとさせていただきます。